山形大学歴史・地理・人類学論集，創刊号，51 − 91，2000 年

ペルー北海岸における考古学遺跡の一般調査（1998，1999 年）
An Archaeological Reconnaissance in the North Coast of Peru, 1998 and 1999.

坂 井 正 人；徳 江 佐和子，鶴 見 英 成，芝 田 幸一郎
Masato Sakai；Sawako Tokue, Eisei Tsurumi, Koichiro Shibata

キーワード：ペルー，北海岸，形成期，クピスニケ
Keywords：Peru, North Coast, Formative Period, Cupisnique

1 はじめに

本論は、南米ペルー共和国の北海岸の考古学遺跡＜地図１＞において実施された一般調査[Kato et al. 1999]に関する報告と考察である。この地域にある５つの川の流域の中・下流部付近を 1998 年 9 月と 1999 年 9 月に合計 4 週間かけてまわり、50 カ所の遺跡を踏査した。この調査の目的はこれまで研究が少なかったこれらの流域で調査を行うことによって、ペルー北海岸の形成期社会の様相を把握するために、今後どの様な研究が必要なのかについて検討することにある。その際、形成期以降の北海岸の動向についても視野に入れた。

なお本研究は文部省科学研究費（平成 10 年度国際学術研究、平成 11 年度基盤研究（A））『アンデス先史の人類学的研究』(研究代表者：埼玉大学教授・加藤泰建)によって実施された。

2 先行研究

今回の調査は、古代アンデス文明の起源にかかわる問題に取り組んできた東京大学調査団の過去 40 年間のペルー北部における発掘[井口 1998; Izumi et al. 1972; Izumi and Sono eds. 1963; Izumi and Terada eds. 1966, 1972; 松沢 1974; 大貫・藤井 1974; Onuki ed. 1995; Seki 1997; Terada ed. 1979; Terada and Onuki eds. 1982, 1985, 1988; cf. 加藤編 1999; 加藤・関編 1998; Onuki 1998]と密接な関係にある。これらの一連の研究によって、アンデス文明の形成過程において神殿が重要な役割を果たしたことが明らかになった。またこうした神殿を核にすえた形成期社会がペルー北部を中心に紀元前 2500～紀元前 50 年頃に展開したことが指摘されている[加藤 1998: 36-38; cf. 井口 1996: 24-28; 加藤 1993: 40]。

1988 年に東京大学調査団が発掘を開始したクントゥル・ワシ（Kuntur Wasi）遺跡は、ヘケテペケ(Jequetepeque)川の上流、標高約 2300 メートルにある神殿遺跡である。ここで注目したいのは形成期中期から後期にかけての変化である。形成期中期のイドロ期（紀元前 1000～紀元前 800 年）の遺物は、クントゥル・ワシ遺跡よりもさらに高地にあるカハマルカ（Cajamarca）盆地の遺

跡から出土するものと非常によく似ている[井口 1990: 90; Onuki ed. 1995: 28; Seki 1998: 152; 関・坂井 1998: 135]。ところが形成期後期のクントゥル・ワシ期（紀元前800～紀元前500年）に入ると一転して、北海岸の土器や建築物との類似性が顕著になる。

北海岸では人間の生首、猫科動物（ジャガー）、蛇などをモチーフにしたクピスニケ(Cupisnique)様式と呼ばれる豊かな図像表現を有する土器やレリーフなどが、この時期に制作されたものとして広く認められてきた[e.g. Alva 1986b; Bischof 1998; Larco 1941; Lothrop 1941; T. Pozorski 1975; Roe 1974; Rowe 1967; Salazar-Burger and Burger 1982; Tello 1943, 1956, 1960]。そしてこれと非常によく似た遺物が形成期後期のクントゥル・ワシからも出土したのである[井口 1990, 1999: 26-28, 43, 46-49; Inokuchi 1998; Kato 1993; 加藤 1999; Onuki 1990, 1997; 大貫・加藤 1991; Onuki ed. 1995; 坂井 1999: 157-158; 徳江 1999]。

またこの時期にクントゥル・ワシの墓に埋葬された人物の骨を分析したところ、潜水など海で活動する人に多発する外耳道骨腫と呼ばれる病変が認められた。つまりこの人物が海岸地方出身であった可能性が指摘できる[Onuki ed. 1995:212]。また副葬品に海でとれる法螺貝や貝製の飾りものが多数含まれていること、墓の構造がペルー北海岸のもの[Larco 1941: 161, 167]と非常によく似ていることから、この時期に北海岸のリーダーたちが山地に移動して、神殿の建設や工芸品の製作に関わったと考えられる [加藤・井口 1998: 213-214]。

一方、海岸地方の神殿においても、形成期中期から後期にかけて興味深い変化が見られる。神殿遺跡から採取された絶対年代の試料は、いずれも形成期中期末までの年代を示しており、後期に相当するものはほとんどない。これはすなわち、海岸地方では紀元前700年頃までにほとんどの神殿が放棄されたことを示唆するものと考えられる[Onuki 1993:89-93]。

放棄の原因に関しては、山地からの侵略によるとする説[S. Pozorski 1987; S. Pozorski and T. Pozorski 1987: 117-125, 127-132; T. Pozorski 1987: 45]や、津波災害説[Bird 1987]も挙がっているが、近年は洪水や海産資源の減少などを引き起こす大規模なエル・ニーニョ現象に注目する研究者が多い [Elera 1993, 1997; 加藤・井口 1998; cf. Burger 1992: 189-190]。またこれを裏付ける資料も増えている[Fuchs 1997: 150-152; Maldonado 1992: 104, 106; Nials et al. 1979: 10; Wells 1990]。

ところが神殿が放棄された前後の時期の神殿活動および社会の様相については、発掘調査が不十分なため、あまりよく分かっていない。海岸地方におけるこうした変化は、山地のクントゥル・ワシ遺跡で起こった変化と密接な関係にあったと考えられるので、当時の海岸社会の実態を把握することは、海岸と山地を含めたペルー北部全体における社会動態について理解を深めることにつながる。

なおモチェ（Moche）川、ビルー(Virú)川、チャオ(Chao)川、サンタ(Santa)川、ネペーニャ(Nepeña)川、カスマ(Casma)川など、北海岸南部および中央海岸北部の流域では

一般調査が行われており[Billman 1996; Cárdenas 1998; Conklin 1990; Daggett 1984, 1987; Fung and Williams 1977; S. Pozorski and T. Pozorski 1987; Proulx 1985; Tello 1956; Uceda 1988; Uceda et al. 1990; Willey 1953; Wilson 1987, 1988]、このうち一部の遺跡ではある程度本格的な発掘調査が実施されている [Alva 1986a; Brennan 1980, 1982; Fuchs 1997; 松沢 1974; Mujica 1975; S. Pozorski and T. Pozorski 1977, 1986, 1987, 1989, 1991, 1992, 1998; T. Pozorski 1976; T. Pozorski and S. Pozorski 1990, 1995, 1996; Samaniego et al. 1985; Tello 1943, 1956]。

一方、地理的にクントゥル・ワシ遺跡に近いチカマ (Chicama) 川以北の流域では、調査自体の数が少ない上、発掘の規模も小さく、形成期遺跡についての情報が不足しているのが現状である[cf. Alva 1988; Alva and Alva 1982; Barreto Cedamanos 1984; Chauchat et al. 1998; Dillhay 1998; Elera 1986, 1992, 1998; Hecker and Hecker 1994, 1995; Larco 1941; Pimentel 1986; Ravines 1981, 1982, 1985; Shimada et al. 1982; Tellenbach 1986]。

3　ペルー北海岸における一般調査(1998、1999 年)

まずヘケテペケ川中・下流域<地図５>に分布する形成期遺跡を調査対象として、その分布・建築物・遺物を検討することによって、カハマルカ盆地およびクントゥル・ワシ遺跡をはじめとするヘケテペケ流域の遺跡との関係を探った。その上でレケ (Reque) ～チャンカイ (Chancay) 川<地図２>、サーニャ (Zaña) 川<地図３>、チャマン (Chamán) 川<地図４>、チカマ川<地図６>の中・下流域を踏査することによって、チカマ以北における形成期遺跡に関する理解を深めることに努めた。

今回は形成期の遺跡を中心に一般調査を行ったが、先行研究で形成期とされている遺跡の他に、航空写真の分析および地元の情報によって、「存在が新たに確認できた遺跡」、「形成期の遺物が分布していると地元で言われている遺跡」も調査対象とした。これは今まで知られていなかった形成期の遺跡を探すためであったが、結果として後の時代の遺跡についても調査することになった。また各遺跡では形成期の遺物だけでなく、後の時期のものがあればこれも採取した。これは形成期遺跡における後の時代の活動の有無を確認するためである。

調査対象となった遺跡は６項目 (①遺跡名、②緯度・経度、③立地、④形態、⑤土器、⑥時期) について検討され、「遺跡リスト」が作成された。なおそれぞれの項目は以下の基準にしたがって記載された。

①遺跡名：すでに先行研究で報告されている場合には、その名称を採用した。それがない場合は地元での呼び名もしくは地名を遺跡名とした。

②遺跡の緯度・経度：Global Positional System もしくは 10 万分の１の地形図(U.S. Army Topographic Command) を利用して決定した。

③立地：付近の地形、町、他の遺跡との位置関係によって示した。川に関しては中流部・下流部の区別を示した。中流部は海抜 800m 以下の谷間部、下流部は谷の開口

部より下流の平野部とした。ただしレケ川とチャンカイ川は、同一水系のそれぞれ下流部と中流部を指しているため、川の名称によって下・中流の区別を示した。

④形態：遺跡の中には、建築物が土層で完全におおわれてマウンド状になっているにもかかわらず、その上に土器が集中的に落ちているために遺跡と判別できるものがある。しかし今回調査した大部分の遺跡では、地表に建物が露出していたり、盗掘坑によって地中に埋まっている建築物の一部が確認できたため、そこを観察することによって建築材料および建物の配置や重なりを把握することができた。

⑤土器：各遺跡において表面採取した土器を、以下の基準に従って「形成期」、「モチェ」、「チムー・ランバイェケ」（Chimú・Lambayeque）、「カハマルカ」と分類した＜写真 11－16＞。その際に装飾・胎土・器形・表面整形・色といった土器の属性およびその組み合わせに注目したが、分類のための情報はボトル（鐙型・長頸）や口縁部には多く、粗製土器、胴部破片には少ないため、必ずしも全ての土器を同列に扱ったわけではない。また上の４タイプのどれにも分類できない土器が多数あったが、これらは今回の検討の対象からはずした。

「形成期」の土器を時期やタイプによって細分しなかったのは、北海岸における形成期の土器編年が確立していない段階で、表面採集の土器を属性の類似だけで他遺跡の土器と比べて同定していくことが危険であることを認識した結果である。ただしヘケテペケ川流域の形成期遺跡で、モンテグランデ（Montegrande）出土の形成期前期の土器[Ulbert 1994]と類似したもの＜図 4、6＞が見られる場合は、同じ河谷の近接した地域なのであえて言及した。また今回の調査は形成期に焦点をあてたものなので、厳密に区別することが難しいチムーとランバイェケの土器は一括して分類した。

「形成期」の土器を識別するときにまず注目したのが装飾である。この時期の土器には刻線＜図 1、2、3＞、貼付文＜図 4＞、磨線＜図 5＞、刺突文＜図 6＞などの装飾技法が見られるが、そのなかでも刻線がもっとも多く見られる。次に注目したのが器形と表面整形の組み合わせである。鐙型や長頸のボトルで、表面がよく研磨されている場合、口縁部および鐙型注口部の形＜図 7、8＞によって「形成期」の土器と認定した。また図像表現＜図 1＞によっても時期を同定した。

一方、「モチェ」の土器の場合は、器面に塗彩される色に注目した。この時期の土器には白や赤色のスリップが厚く塗られ、その上に赤や白色の顔料が塗彩されることが多い＜図 9、10＞。なかには文様によって時期同定ができるものもある＜図 10＞。

「チムー・ランバイェケ」の土器の場合、器面に施された敲打文（paleteada）＜図 11＞、押型文（decolación moldeada)＜図 12＞などの装飾技法がしばしば見られる。また屈折した口縁部から頸部に白いスリップがかけられた短頸壺＜図 13＞、口唇部が肥厚した大かめ（Tinaja）＜図 14＞、注口部に型の跡が残る鐙型ボトル＜図 15＞なども この時期の土器とした。

「カハマルカ」の土器は、胎土や図像表現が北高地のカハマルカ地方で製作された

ものとよく似ている。

⑥時期：調査で採取された土器資料、建築材料、先行研究を参考に決定した。記載に際しては、先行研究により時期が特定されているものはそれを示した。また、土器以外の要素により時期を特定したものに関してはかっこ内にその要素を記した。特に記述のないものは土器により時期を特定した。なおここで示したのは各遺跡で少なくとも何らかの活動があったと想定できる時期である。つまり必ずしも大規模な建築活動だけではなく、後の時代に遺跡が墓地として再利用された場合も含まれる。また「カハマルカ」の土器に限っては、遺跡の時期を決定する判断材料から今回ははずした。なぜならばこのタイプの土器は、北高地から持ちこまれたり、その影響を受けて北海岸で製作されたと考えられるため[Castillo and Donnan 1994: 99]、他の土器とは区別する必要があるからである。

4　おわりに

この調査では合計で 50 カ所の遺跡を訪れた。ヘケテペケ川流域で 23 遺跡、レケ～チャンカイ川流域で 14 遺跡、サーニャ川流域で 6 遺跡、チャマン川流域で 2 遺跡、チカマ川流域では 5 遺跡である。このうち形成期の遺跡は、ヘケテペケ川流域で 9 遺跡、レケ～チャンカイ川流域で 7 遺跡、サーニャ川流域で 3 遺跡、チャマン川流域で 0 遺跡、チカマ川流域で 3 遺跡である。なお今回は網羅的な調査を実施していないため、これらは流域ごとの遺跡の頻度を示すものではない。

ただし形成期の遺跡が比較的多く分布していることが確認できたヘケテペケ川とレケ～チャンカイ川流域では、新しい知見を得ることができただけでなく、今後検討すべき課題が明らかになった。

まず最も多くの形成期遺跡が確認されたヘケテペケ川流域では、今回調査を行った地域だけでなく、より上流の地域でも形成期遺跡がいくつも確認されている[Ravines 1981, 1982, 1983: 81-87, 1985; Terada and Onuki 1985: Figure 1]。肥沃なカハマルカ盆地を上流に持つヘケテペケ河谷では、この時期に高地と海岸の間で密接な交流があったと考えられるので、その中・下流部に比較的多くの遺跡があるのは肯ける。

特にリモンカルロ（Limoncarro）遺跡(No.26)は、形成期の神殿建築にしばしば見られる U 字型の基壇配置があること、基壇の作り替えがあったこと、この基壇からクピスニケ様式のフリーズが出土したと言われていること[Barreto Cedamanos 1984]から、ヘケテペケ川の下流部における中心的な神殿であったと考えられる。そこで発掘によってこの遺跡の性格および機能していた時期を明らかにして、付近の形成期の遺跡とどのような関係にあったのかについて検討すれば、ヘケテペケ下流域における形成期社会の様相についてある程度見通しをつけることができるのではないか。

一方、レケ川流域では沿岸部にあるモロ・デ・エテン（Morro de Eten）[Elera 1986, 1992]が形成期の神殿遺跡として有名であるが、プカラ（Pucalá）の町のすぐ近くにあるアルガロバル（Algarrobal）４、５（No.11）も神殿遺跡である可能性は大きい。

これは土のマウンドの上に約 20 メートル離れて建てられた２つの大きな基壇状建築物によって構成され、この遺跡および付近のアルガロバル１、２、３（No.8、9、10）遺跡には、「形成期」の土器が比較的多く分布していることが今回の調査で確認された。アルガロバル遺跡は地元でよく知られた存在であるが、これまで発掘調査は行われておらず、遺跡のプランや出土遺物に関する体系的な研究はない。

最後に、この２つの流域の遺跡が、形成期以降どの様に利用されたのかについて検討してみたい。

レケ川流域のアルガロバル遺跡群では、地表に「チムー・ランバイェケ」の遺構が露出しており、この時期の土器が一面に広がっているにもかかわらず、その中に混じって「形成期」の遺物が採取できる。特にアルガロバル４、５（No.11）では、形成期のものと考えられる石造建築物が地中のかなり深いレベルに存在することが、盗掘坑を観察することによって確認できた。つまり形成期の遺跡の上に、後の時代の建築物が重なっていることになる。

ところがヘケテペケ川中・下流域ではこうした事例は確認できず、むしろ形成期の遺構が露出していて、その付近に形成期の土器と一緒に後の時代の遺物が見つかった（No.37、38、40）。おそらく形成期の遺跡は、埋葬など比較的小規模な活動のために後の時代に再利用されることはあっても、その上に大規模な建築物が作られることはなかったようである。リモンカルロ遺跡のように、形成期の土器を伴う建築群のすぐ近くに、別の基壇があり、そこからはもっぱら「チムー・ランバイェケ」の遺物が採取できる事例もある。

以上よりレケ川流域とヘケテペケ川流域では、形成期遺跡におけるその後の活動に大きな違いがあったと考えられる。ただし今回の調査は発掘を伴っていないため、ここで用いた資料は地表で確認できた遺物・遺構に限られている。さらにこの調査では50カ所の遺跡を4週間という短い期間で踏査したため、徹底的な表面調査を行っていない。

今後、両流域を中心としてペルー北海岸の形成期遺跡に関する知見を広げると共に、発掘を伴った調査を実施することによって、はじめて上記の仮説を検討することができるであろう。

(山形大学人文学部; 東京大学大学院総合文化研究科)

[遺跡リスト]

No.1

①遺跡名：モロ・デ・エテン（Morro de Eten）

②緯度・経度：南緯 6°56' 20" ／西経 79°52' 0"

③立地：レケ（Reque）川沿岸部。モロ・デ・エテン（Morro de Eten）山の裾部分。

④形態：多数の盗掘坑があり、その周辺で人骨が散乱しているのを確認した。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期〔Elera 1986〕／チムー・ランバイェケ

No.2

①遺跡名：コユス（Collúz）＜写真 1＞

②緯度・経度：南緯 06°47' 0" ／西経 79°46' 20"

③立地：レケ川流域。コユス（Collúz）村の近くにある。

④形態：アドベの大マウンドの他に小マウンドが少なくとも８以上ある。平地部をはさんで、西マウンド群と東マウンド群に分かれる。大マウンドは西マウンド群の最南部に位置する。東マウンド群は全体的にやや低い。

マウンド表面の建築材料はアドベであるが、西マウンド群の東端および両マウンド群の盗掘坑内面に石壁が確認された。

⑤土器：モチェ／カハマルカ／チムー・ランバイェケ

⑥時期：モチェ／チムー・ランバイェケ

No.3

①遺跡名：ワカ・ティル１（Huaca Til 1）

②緯度・経度：南緯 06°46' ／西経 79°37'

③立地：レケ川流域。ワカ・サンタ・ロサ（No.7 Huaca Santa Rosa）の南に位置する。

④形態：アドベマウンド。

⑤土器：？

⑥時期：？

No.4

①遺跡名：ワカ・ティル２（Huaca Til 2）

②緯度・経度：南緯 06°46' ／西経 79°37'

③立地：レケ川流域。ワカ・ティル１（No.3）のすぐ南に位置する。

④形態：アドベマウンド。

⑤土器：モチェ＜図９、写真 13＞

⑥時期：モチェ

No.5

①遺跡名：ワカ・トゥク・トゥク（Huaca Tuc Tuc）

②緯度・経度：南緯 06°46' ／西経 79°37'

③立地：レケ川流域。ワカ・ティル２（No.4）のすぐ南に位置する。

④形態：低いアドベマウンド。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.6

①遺跡名：ワカ・ベラ（Huaca Vera）

②緯度・経度：南緯 06°46' ／西経 79°37'

③立地：レケ川流域。ワカ・トゥク・トゥク（No.5）のすぐ南側にある。

④形態：低いアドベマウンド。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.7

①遺跡名：ワカ・サンタ・ロサ（Huaca Santa Rosa）＜写真２＞

②緯度・経度：南緯 06°46'20" ／西経 79°37'20" （マウンド②にて）

③立地：レケ川流域。プカラ（Pucalá）の町の北西約 1km の所に位置する。マウンド上から南東方向にワカ・ラハダ（Huaca Rajada）遺跡、別名シパン（Sipán）遺跡が見える。

④形態：４つのアドベマウンドからなる。大マウンドが３つ東西にならび（東から①②③とする）、マウンド①と②の間に小マウンドがある（④）。

方形のアドベが確認された。またマウンド②のアドベの中には円礫が多く含まれている。

⑤土器：形成期／モチェ＜図 10、写真 13＞／カハマルカ／チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期／モチェ／チムー・ランバイェケ

No.8

①遺跡名：アルガロバル１（Algarrobal 1）

②緯度・経度：南緯 06°46'55" ／西経 79°36'20"

③立地：レケ川流域。プカラの町の東端にあるアルガロボ林の中に位置する。

④形態：低い土のマウンド。

⑤土器：形成期／チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.9

①遺跡名：アルガロバル２（Algarrobal 2）

②緯度・経度：南緯 06°46'55" ／西経 79°36'10"

③立地：レケ川流域。プカラの町の東端にあるアルガロボ林の中に位置する。

アルガロバル１（No.8）の東にある。

④形態：低い土のマウンド。全体に土器が極端に少ない。

⑤土器：形成期／チムー・ランバイェケ。

⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.10

①遺跡名：アルガロバル３（Algarrobal 3）

②緯度・経度：南緯 06°46'55" ／西経 79°36'10"

③立地：レケ川流域。プカラの町の東端にあるアルガロボ林の中に位置する。

アルガロバル２（No.9）の北に位置する。

④形態：低い土のマウンド。

⑤土器：形成期＜図７、写真 12＞／チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.11

①遺跡名：アルガロバル４，５（Algarrobal 4, 5）＜写真 3.＞

②緯度・経度：南緯 06°46'50" ／西経 79°35'60" （アルガロバル５にて）

③立地：レケ川流域。アルガロバル３（No.10）の東に位置する。

④形態：大きな土のマウンドの上に、２つのマウンド（アルガロバル４、５）が約 20m 離れて建っている。西側がアルガロバル４、東側が５である。

両マウンドの内部には俵形アドベおよび石の建築がみられる。

両マウンドの頂上部およびその周囲に多

数の盗掘坑がある。両マウンドの間の平地部に石造建築物が埋まっていることが、盗掘坑の観察によって確認された。
⑤土器：形成期＜図２、３、写真 12＞／チムー・ランバイェケ＜図 15、写真 16＞
⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.12
①遺跡名：アルガロバル６（Algarrobal 6）
②緯度・経度：南緯 06°46' 40" ／西経 79°35' 50"
③立地： レケ川流域。アルガロバル４，５（No.11）の北東に位置する。
現代の墓地になっている。
④形態：やや小高い土のマウンド。
⑤土器：採取せず。
⑥時期：？

No. 13
①遺跡名：セロ・プンティーヤ（Cerro Puntilla）
②緯度・経度：南緯 06° 43' 0" ／西経 79°32' 20"
③立地：レケ川流域北岸。プンティーヤ（Puntilla）山の西側斜面から山裾部に位置する。
④形態：斜面を利用したテラス構造で、石の両面壁、片面壁が見られる。山裾部には低い土のマウンドがあり、盗掘坑が多数見られる。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.14
①遺跡名：セロ・ラカ・ルミ（Cerro Raca Rumi）
②緯度・経度：南緯 06°38' 20" ／西経 79°22' 30"
③立地：チャンカイ（Chancay）川流域北岸。チョンゴヤペ（Chongoyape）の町のすぐ北方の、ラカ・ルミ（Raca Rumi）山の中腹。
④形態：斜面を利用したテラス構造で、石の階段、壁が見られる。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期〔Museo Arqueológico Nacional Brüning 1996〕／チムー・ランバイェケ〔Museo Arqueológico Nacional Brüning 1996〕

No.15
①遺跡名：ワカ・カナスロチェ（Huaca Canasloche）
②緯度・経度：南緯 7° 4' 05" ／西経 79°43' 35"
③立地：サーニャ（Zaña）川下流部北岸（沿岸部）。
④形態：砂丘に盗掘坑多数あり。貝と土器が散乱している。
⑤土器：？
⑥時期：？

No.16
①遺跡名：プルレン（Purulén）＜写真 4＞
②緯度・経度：南緯 7° 4' ／西経 79° 40～41'
③立地：サーニャ川下流部（沿岸部）。プルレン（Purulén）山の中に位置する。
④形態：多数の基壇、テラス構造からなる石造の複合建築群。

⑤土器：？
⑥時期：形成期〔Alva 1988〕

No.17
①遺跡名：セロ・コルバッチョ（Cerro Corbacho）
②緯度・経度:S 6° 54' 45" ／西経 79° 33' 40"
③立地：サーニャ川下流部北岸。高さ 200m 程の小山の斜面から山裾部に建築が見られる。
④形態：斜面に複数の石壁あり。テラス状の土留め壁や小部屋状の両面壁の建築がある。アドベやタピアの建築も確認された。土器は山裾部の盗掘坑周辺に特に多い。
⑤土器：チムー・ランバイェケ<図 12、写真 16>
⑥時期：チムー・ランバイェケ〔Cruz Gonzales 1996〕

No.18
①遺跡名：セロ・コンケス（Cerro Conques）
②緯度・経度：S．6° 52' 55" ／西経 79° 24' 50"
③立地：サーニャ川中流部南岸。コンケス（Conques）山、別名クルポン（Culpon)山の川に面した斜面（中腹から山裾部)。
④形態：斜面にそって 10m 以上の長さの石壁が複数確認された。
⑤土器：形成期／チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.19
①遺跡名：ワカ・トレス・ピコス（Huaca Tres Picos）
②緯度・経度：南緯 06° 51' 0" ／西経 79° 24' 0"（基壇建築)、南緯 06° 51' 10" ／西経 79° 23' 55"（岩絵）
③立地：サーニャ川中流部北岸。トレス・ピコス（Tres Picos）山の中腹から山裾部。
④形態：山の斜面を利用した石造基壇建築。基壇上に石の両面壁でできた小部屋状建築が見られる。この基壇よりも下の斜面には、岩絵のある赤石が複数確認された。また山裾付近に「オイータ（Ollita)」と呼ばれる岩を丸くくりぬいた構造物が確認された。
　基壇建築と岩絵の付近に土器が採取できた。
⑤土器：？
⑥時期：？

No.20
①遺跡名：ワカ・エル・トロ（Huaca el Toro）<写真 6>
②緯度・経度：南緯 06° 51' 30" ／西経 79° 18' 10"
③立地：サーニャ川中流部南岸。オヨトゥン（Oyotún）の町の西側。
④形態：長方形の基壇建築。高さ 5m 以上。基壇には高さ 1m 以上の大石を使っている。
⑤土器：形成期／カハマルカ／チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

No.21
①遺跡名：サン・クリストバル（San Cristobal）
②緯度・経度：S. 07° 09' 10" ／西経 79° 12' 10"
③立地：チャマン（Chamán）川中流部南岸。

マンゴ（Mango）村の南側の小山上に位置する。この山の頂上部よりミラドール（Mirador）の村一帯が一望できる。
④形態：高さ15m位の石の小山の頂上部に石列がある。石の配置より円形の構造物があったと考えられる。土器はほとんど見られない。
⑤土器：チムー・ランバイェケ。
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.22
①遺跡名：ワカ・サウサル（Huaca Sausal）
②緯度・経度：南緯 07°09'20" ／西経 79°08'10"
③立地：チャマン川の支流のサン・ホセ川（Rio San José）の南岸に位置する。
④形態：石壁が点在し、いくつかは小部屋状になっている。地表には多少土器が採取された。
⑤土器：？
⑥時期：？

No.23
①遺跡名：プエマペ（Puémape）
②緯度・経度：南緯 07°31'10" ／西経 79°32'10"
③立地：ヘケテペケ（Jequetepeque）川下流部（沿岸部）。プエマペ（Puémape）山の裾の南西部に位置する。遺跡の周囲は砂丘。
④形態：方形の石造構造物。大部分が砂におおわれている。
⑤土器：？
⑥時期：形成期／サリナール〔Elera 1993, 1997, 1998〕

No.24
①遺跡名：パンパ・エル・マッチョ1（Pampa el Macho 1）　＜写真 7＞
②緯度・経度：南緯 7°17'30" ／西経 79°28'40"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。パンパ・エル・マッチョ（Pampa el Macho）山の西側の裾に位置する。ファルファン（Farfán）遺跡はこの山の東側山裾にあたる。
④形態：山の斜面を利用した、石造のテラス状構造物。テラスを5段確認している。
　盗掘坑なし。
⑤土器：チムー・ランバイェケ＜図 11、13、14、写真 15、16＞
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.25
①遺跡名：パンパ・エル・マッチョ2（Pampa el Macho 2）
②緯度・経度：南緯 7°17'40" ／西経 79°28'45"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。パンパ・エル・マッチョ山の西側山裾に位置する。パンパ・エル・マッチョ1（No.24）の南にある。
④形態：山の斜面部にはテラス構造があり、平地部には広場と基壇構造物がある。
　確認された建築材料はアドベと石壁。盗掘坑あり。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.26
①遺跡名：リモンカルロ（Limoncarro）、別名ワカ・タマリンド（Huaca Tamarindo）

＜写真８＞
②緯度・経度：南緯 07°17'50" ／西経 79°26'40"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。カレーラ（Calera）山の裾の南東部。
④形態：東側に開くＵ字型の基壇が広場を囲む。広場北東端からは、さらに東に延び、南に折れ曲がるＬ字型の基壇が続く。その東にやや離れて方形の基壇がある。

Ｕ字型の基壇内部では、切石の壁と円錐型アドベの壁が確認された。またＵ字型基壇に囲まれた広場は、円錐型アドベが１段敷きつめられ、床面を成していることが一部の盗掘坑内面で確認された。

Ｕ字型建築とＬ字型基壇の間の低くなっている部分では、盗掘坑内面より円錐型アドベと白い床が観察された。Ｌ字型基壇の北東斜面には、一部石壁が確認された。
⑤土器： 形成期＜図１、８、写真 11＞／チムー・ランバイェケ

形成期の土器は、主にＵ字型建築群とＬ字型基壇付近で見つかり、チムー・ランバイェケの土器は東基壇上部で採集できた。
⑥時期：形成期／チムー・ランバイェケ

時期を形成期とする根拠には、土器の他に円錐型アドベ、また先行研究によって確認されているレリーフの図像〔Barreto Cedamanos 1984; T.Pozorski 1976:213-215〕があげられる。

No.27
①遺跡名：ワカ・コスケ（Huaca Cosque）
②緯度・経度：南緯 7°19'35" ／西経 79°26'20"
③立地：ヘケテペケ川下流部南岸。サン・ホセ（San José）山の北東に広がるやや起伏のある平地。
④形態：南西部にアドベでできた方形の建築物がある。

広範囲にわたって盗掘坑が分布する。盗掘坑の内部でもアドベの建築を確認した。

土器は一面に広がっている。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.28
①遺跡名：ワカ・エレーラ（Huaca Elera）、別名ワカ・ハビエル（Huaca Javier）
②緯度・経度：南緯 7°20'15" ／西経 79°25'40"
③立地：ヘケテペケ川下流部南岸。サン・ホセ（San José）町の付近。畑の中にやや離れて３つ小マウンドがあり、そのうちの１つ。
④形態：土のマウンドで、中に小円礫が多く詰まっている。マウンド表面で土器が確認された。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.29
①遺跡名：ワカ・コロラーダ（Huaca Colorada）
②緯度・経度：南緯 7°23'0" ／西経 79°26'45"
③立地：ヘケテペケ川下流部南岸。サントンテ（Santonte）山の西側で砂丘地帯。
④形態：アドベで作った大壁あり。大壁は高さ 2m 弱、厚さ約 1m で、方形アドベを使っている。一面に赤色の土器が落ちてい

る。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.30
①遺跡名：ワカ・サンタ・マリア（Huaca Santa María）
②緯度・経度：S7°21'40"／西経 79°23'50"
③立地：ヘケテペケ川下流部南岸。プリエト・エスピナル（Prieto Espinal）山付近の平地にある。
④形態：表面が完全に砂で覆われているマウンド。東部が一段下がってテラス状になっている。土器が一面に分布する。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期〔Ravines 1983〕／チムー・ランバイェケ

No.31
①遺跡名：ワカ・インヘニオ（Huaca Ingenio）
②緯度・経度：南緯 7°18'10"／西経 79°24'45"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。アシエンダ・リモン・カルロ（Hacienda Limon Carro）の近く。
④形態：楕円形のマウンド。マウンド内には土と小円礫が確認された。
　盗掘坑あり。土器はあまり多くない。
⑤土器：チムー・ランバイェケ。
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.32
①遺跡名：ワカ・ペタイケ（Huaca Petaique）
②緯度・経度：南緯 7°18'10"／西経 79°24'40"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。北西方向にワカ・インヘニオ（No.31）がある。
④形態：高さ 4～5m の小高いマウンド。マウンド内には土と小円礫が確認された。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.33
①遺跡名：ヌエベ・デ・オクトゥブレ（Nueve de Octubre）
②緯度・経度：7°17'20"／西経 79°24'20"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。アシエンダ・セリーリェ（Hacienda Cerrílle）の付近。
④形態：地山が露出した小高い丘。土器が全体に分布しているが、明確な遺構は確認できなかった。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.34
①遺跡名：セロ・ピトゥーラ（Cerro Pitura）
②緯度・経度：南緯 07°19'30"／西経 79°22'0"
③立地：ヘケテペケ川下流部南岸。この位置から谷が開けている。この山の頂上から中流部および下流部を見渡すことができる。
④形態：山頂、斜面、山裾部で建築を確認。
　山頂には6つのマウンドがある。このうち南の4つのマウンドでは方形アドベの建築物が見つかった。そのうちもっとも南のマウンドにはアドベと石でできた壁が確認された。石壁は北西斜面の中腹および頂上

東部付近に見られ、方形アドベの壁は山の南から南西の山裾部で確認された。
⑤土器：形成期／モチェ／チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期／モチェ／チムー・ランバイェケ〔Ravines 1983〕

No.35
①遺跡名：ワカ・アテリサヘ（Huaca Aterrizaje）
②緯度・経度：南緯 7°17'35"／西経 79°21'25"
③立地：ヘケテペケ川下流部北岸。タランボ（Talambo）山の裾の南西部にあたる。
④形態：方形の石造基壇建築。北西側は3段のテラス状を呈し、中央にスロープを持つ。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.36
①遺跡名：ワバルA（Huabal A）、別名ロテマヤ（Lotemaya）
②緯度・経度：南緯 07°17'40"／西経 79°19'45"
③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。尾根の張り出しのつけ根部分。
④形態：石造建築物。基壇とテラス構造。
⑤土器：形成期／チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期〔Ravines 1983〕／チムー・ランバイェケ

No.37
①遺跡名：ワバルB（Huabal B）
②緯度・経度：南緯 07°17'15"／西経 79°19'25"
③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。ワバルA（No.36）とビチャヤル（No.38 Vichayal）の間の尾根上。
④形態：南東にのびる2本の大壁。壁にそって盗掘坑多数あり。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.38
①遺跡名：ビチャヤル（Vichayal）
②緯度・経度：南緯 07°17'0"／西経 79°19'15"
③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。尾根の小さな張り出しの間にある小高い丘のふもとに位置する。
④形態：半地下式広場と基壇の複合建築。基壇の周囲の壁は両面壁で、内部には複数の小部屋状建築が見られる。
⑤土器：形成期（モンテグランデ遺跡出土の土器に類似する）／チムー・ランバイェケ
⑥時期：形成期〔Ravines 1983〕／チムー・ランバイェケ

No.39
①遺跡名：アレニータ（Arenita）
②緯度・経度：南緯 07°16'20"／西経 79°18'10"
③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。尾根の東側に位置する。
④形態：3段のテラス状の石造構造物、広場、D字型石造構造物がある。
平地部にアドベの壁も確認された。遺跡北部には蛇のモチーフと思われる岩絵があ

る。

広場に土器が集中して分布している。

⑤土器：チムー・ランバイェケ／カハマルカ

⑥時期：形成期〔Ravines 1983〕／チムー・ランバイェケ

No.40

①遺跡名： J24. I.〔Ravines 1985〕、別名ポルボリン(Polvorín)＜Foto 9＞

②緯度・経度：南緯 7° 16' 10" ／西経 79° 16' 45"

③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。ランパデン（Lampadén）山の斜面。

④形態：斜面を利用したテラス状の石造建築物。最上段にはアドベ建築が確認された。

4段のテラス状建築の最下部にはU字型構造および広場がある。さらに下には方形基壇が見られる。

近年の土砂採掘工事のため遺跡の南部が大幅に削平された。

⑤土器：形成期（モンテグランデ出土の土器に類似する）／ガジナソ／チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期〔Ravines 1985〕／チムー・ランバイェケ

No.41

①遺跡名：ランパデン（Lampadén）

②緯度・経度：南緯 07° 15' 50" ／西経 79° 15' 25"

③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。高く張り出した2つの尾根の間に位置する。

④形態：尾根から緩やかにつながる丘上に複数のマウンドがある。

盗掘坑は複数確認されたが、明確な構造物は見られなかった。

⑤土器：？

⑥時期：？

No.42

①遺跡名：ワカ・プラド・アルト（Huaca Prado Alto）

②緯度・経度：南緯 7° 17' 0" ／西経 79° 17' 30"

③立地：ヘケテペケ川中流部南岸。山裾と川の間の平地。

④形態：テラス状構造物のある基壇、マウンド、方形の両面壁の構造物が確認された。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.43

①遺跡名：ワカ・ネグラ（Huaca Negra）

②緯度・経度：南緯 7° 17' 0" ／西経 79° 16' 35"

③立地：ヘケテペケ川中流部南岸。ネグロ（Negro）山の川に面した中腹に位置する。北岸のJ24.I.(No.40)のほぼ対岸にあたる。

④形態：ネグロ山の斜面に土留め壁で作ったテラス構造が3カ所で確認された。内1つには、テラス上に両面壁（幅約50cm）の小部屋構造も見られた。これらの構造物を取り囲むような石の大壁（幅約2mの両面壁）がある。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.44

①遺跡名：ワカ・ブランカ（Huaca Blanca）

<写真 10>
②緯度・経度：南緯 07°16'40" ／西経 79°15'30"
③立地：ヘケテペケ川中流部南岸。ベンタニーヤ（Ventanilla）村の近くにある。
④形態：基壇建築が３つ確認された。
建築材料はアドベおよび円礫。一辺 60cm 以上のアドベが確認された。
アドベ建築は少なくとも２時期以上を想定することができる。
⑤土器：チムー・ランバイェケ
⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.45
①遺跡名：ラス・ワカス（Las Huacas）
②緯度・経度：南緯 07°13'50" ／西経 79°08'60"
③立地：ヘケテペケ川中流部北岸。モンテグランデ遺跡に近接し、ガジート・シエゴ（Gallito Ciego）湖に面している。
④形態：基壇と広場の複合建築。
⑤土器：形成期（モンテグランデ出土の土器に類似する）<図４～６>
⑥時期：形成期〔Ravines 1985〕

No.46
①遺跡名：ワカ・デ・サン・ホセ（Huaca de San José）、別名プクチェ（Pukuche）
②緯度・経度：南緯 7°42'30" ／西経 79°10'35"
③立地：チカマ（Chicama）川下流部北岸。ワカ・デ・ファカラＡ（No.47 Huaca de Facalá A）の北西。
④形態：北東に開くＵ字型のアドベマウンド。円錐型アドベと方形アドベが確認された。
⑤土器：モチェ／チムー ・ランバイェケ
⑥時期：形成期（円錐型アドベ、〔Larco 1941〕より）／モチェ／チムー・ランバイェケ

No.47
①遺跡名：ワカ・デ・ファカラＡ（Huaca de Facalá A）
②緯度・経度：南緯 7°43'0" ／西経 79°10'10"
③立地：チカマ川下流部北岸。カサ・グランデ（Casa Grande）よりやや北に入ったサトウキビ農園地帯の中。
④形態：高さ５ｍくらいの、円錐型アドベのマウンド。円錐型アドベの底面の直径は約 25cm。
⑤土器： モチェ
⑥時期：形成期（円錐型アドベより）／モチェ

No.48
①遺跡名：ワカ・ソルカペ（Huaca Sorcape）
②緯度・経度：南緯 7°44'10" ／西経 79°9'5"
③立地：チカマ川下流部北岸、谷の開口部。ソルカペ（Sorcape）山の西側斜面に位置する。
④形態：ソルカペ山の西斜面頂上付近には円錐型アドベの建築、中腹には方形のアドベの建築がある。一方、山裾部には盗掘坑が確認された。
⑤土器：モチェ<写真 14>／チムー・ランバイェケ

⑥時期：形成期（円錐型アドベ、〔Hecker & Hecker 1994〕より）／モチェ・チムー・ランバイェケ（方形アドベより）

No.49

①遺跡名：ワカ・クルス・デ・ボティーハス（Huaca Cruz de Botijas）

②緯度・経度：南緯 7°42'35" ／西経 79°3'50"

③立地：チカマ川下流部北岸。クルス・デ・ボティーハス山（Cerro Cruz de Botijas）の西斜面に位置する。

④形態：基壇と半地下式広場。

建築材料は石壁、円錐型アドベ、俵型アドベ。石壁の建築の上に円錐型アドベの建築が建てられている。円錐型アドベは大きく、高さ約 50cm ある。盗掘坑多し。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

No.50

①遺跡名：パレンケ（Palenque）

②緯度・経度：南緯 7° 43'15" ／西経 79°59'15"

③立地：チカマ川中流部南岸。サウサル（Sausal）の町よりやや上流。河床と山との間の平地。

④形態：墓地。盗掘坑多数あり。土器が一面に分布している。

⑤土器：チムー・ランバイェケ

⑥時期：チムー・ランバイェケ

〔参考文献〕

ALVA, Walter

1986a *Las Salinas de Chao: asentamiento temprano en el Norte del Perú*. Materialien zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie 34. KAVA, Munich.

1986b *Cerámica temprana en el valle de Jequetepeque, Norte del Perú*. Materialien zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie 32. KAVA, Munich.

1988 Investigaciones en el complejo Formativo con arquitectura monumental, Purulén, Costa Norte del Perú (informe preliminar). *Beiträge zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie*. 8: 283-300.

ALVA, Walter and Susana M. de ALVA

1982 Geoglifos del Formativo en el valle de Zaña. *Beiträge zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie*. 4: 204-212.

BARRETO CEDAMANOS, Daisy C.

1984 Las investigaciones en el <Templete> de Limoncarro. *Beiträge zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäeologie*. 6: 541-547.

BILLMAN, Brian R.

1996 *The Evolution of Prehistoric Organizations in the Moche Valley, Peru*. Ph.D. dissertation, University of California, Santa Barbara. University Microfilms, Ann Arbor.

BIRD, Mck.

1987 A Postulated Tsunami and Its Effects on Cultural Development in the Peruvian Early Horizon. *American Antiquity*. 52(2): 285-303.

BISCHOF, Henning

1998 El Período Inicial, el Horizonte Temprano, el Estilo Chavín y la realidad del proceso formativo en los Andes Centrales. En *Encuentro Internacional de Peruanistas: Estado de los estudios histórico-sociales sobre el Perú a fines del siglo XX*. 1: 57-85. Universidad de Lima, Lima.

BRENNAN, Curtis T.

1980 Cerro Arena: Early Cultural Complexity and Nucleation in North Coastal Peru. *Journal of Field Archaeology*. 7(1): 1-22.

1982 Cerro Arena: Origins of the Urban Tradition on the Peruvian North Coast. *Current Anthropology*. 23: 247-254.

BURGER, Richard L.

1992 *Chavín and the Origins of Andean Civilization*. Thames and Hudson, London.

CÁRDENAS, Mercedes

1998 Material diagnóstico del Período Formativo en los valles de Chao y Santa, Costa Norte del Perú. *Boletín de Arqueología PUCP*. 2: 61-81.

CASTILLO, Luis J. and Christopher B. DONNAN

1994 La ocupación Moche de San José de Moro, Jequetepeque. En *Moche: propuestas y perspectivas*. S. Uceda y E. Mujica(eds.). 93-146. Universidad Nacional de La Libertad, Trujillo.

CHAUCHAT, Claude, César GÁLVEZ, Jesús BRISEÑO, and Santiago UCEDA

1998 *Sitios arqueológicos de la zona de*

Cupisnique y margen derecha del valle de Chicama. Patrimonio Arqueológico Zona Norte 4 / Travaux de L'Institut Français d'Etudes Andines 113. Instituto Nacional de Cultura - La Libertad, Trujillo / Instituto Francés de Estudios Andinos, Lima.

CONKLIN, William

1990 Architecture of the Chimú: Memory, Function, and Image. In *The Northern Dynasties: Kingship and Statecraft in Chimor*. M. E. Moseley and A. Cordy-Collins (eds.). 43-74. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D.C.

CRUZ GONZALES, María del Carmen

1996 *La unidad administrativa Chimú N° 1 en el Cerro Corbacho - valle de Zaña: su distribución y funcionalidad*. Tesis para optar el Título de Licenciado en Arqueología, Universidad Nacional de Trujillo, Trujillo.

DAGGETT, Richard

1984 *The Early Horizon Occupation of the Nepeña Valley, North Central Coast of Peru*. Ph.D. dissertation, University of Massachusetts, Amherst. University Microfilms, Ann Arbor.

1987 Toward the Development of the State on the North Central Coast of Peru. In *The Origins and Development of the Andean State*. J. Haas, S. Pozorski and T. Pozorski (eds.). 70-82. Cambridge University Press, Cambridge.

DILLEHAY, Tom D.

1998 La organización dual en los Andes. El problema y la metodología de investigación en el caso de San Luis, Zaña. *Boletín de Arqueología PUCP*. 2: 37-60.

ELERA, Carlos G.

1986 *Investigaciones sobre patrones funerarios en el sitio Formativo del Morro de Eten, valle de Lambayeque, Costa Norte del Perú* (2 vols.). Memoria de Bachiller Inédita, Pontificia Universidad Católica del Perú, Lima.

1992 Arquitectura y otras manifestaciones culturales del sitio formativo del Morro de Eten: un enfoque preliminar. En *Estudios de Arqueología Peruana*. Duccio Bonavia (ed.). 177-192. FOMCIENCIAS.

1993 El complejo cultural Cupisnique: antecedentes y desarrollo de su ideología religiosa. En *El Mundo Ceremonial Andino* (*Senri Ethnological Studies* 37). L. Millones y Y. Onuki (eds.), 229-257. National Museum of Ethnology, Osaka.

1997 Cupisnique y Salinar: alugunas reflexiones preliminares. En *Archaeologica Peruana*. E. Bonnier y H. Bischof (eds.). 2: 120-144. Sociedad Arqueológica Peruano - Alemana. Reiss-Museum, Mannheim.

1998 *The Puémape Site and the Cupisnique Culture: A Case Study on the Origins and Development of Complex Society in the Central Andes, Peru*. Unpublished Ph.D. dissertation, University of Calgary.

FUCHS, Peter R.

1997 Nuevos datos arqueométricos para

la historia de ocupación de Cerro Sechín - Período Lítico al Formativo. En *Archaeologica Peruana*. E. Bonnier y H. Bischof(eds.). 2: 120-144. Sociedad Arqueológica Peruano-Alemana. Reiss-Museum, Mannheim.

FUNG, P. Rosa and Carlos WILLIAMS

1977 Exploraciones y excavaciones en el valle de Sechín, Casma. *Revista del Museo Nacional*. 43: 111-155.

HECKER, Wolfgang and Giesela HECKER

1994 Bajorrelieves del Horizonte Temprano en una cámara de las ruinas en Sorcape, valle del Chicama, Perú. *Baessler-Archiv, Neue Folge*. 42: 203-343.

1995 Frühe kermik aus Tecapa. *Baessler Archiv, Neue Folge* 43:305-440.

井口欣也

1990 『ペルー北高地の形成期文化－クントゥル・ワシ遺跡の土器分析の視点から』東京大学大学院総合文化研究科修士論文。

1996 「チャビン問題再考—中央アンデス地域形成期研究の新たな展開に向けて—」『リトルワールド研究報告』13:1-35、野外民族博物館リトルワールド。

1998 『ペルー北部形成期遺跡マイチリの発掘調査と遺跡保存のための事前調査』平成9年度高梨財団助成金調査・研究報告書。

1999 「アンデス形成期の神殿と革新」加藤泰建編『クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査』19-49、平成10年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書。

INOKUCHI, Kinya

1998 La cerámica de Kuntur Wasi y el problema Chavín. *Boletín de Arqueología PUCP*. 2: 161-180.

IZUMI, Seiichi, Pedro CUCULIZA, and Chiaki KANO

1972 *Excavations at Sillacoto, Huánuco, Peru*. The University Museum Bulletin. 3. The University of Tokyo.

IZUMI, Seiichi and Toshihiko SONO eds.

1963 *Andes 2: Excavations at Kotosh, Peru, 1960*. Kadokawa Publishing Co., Tokyo.

IZUMI, Seiichi and Kazuo TERADA eds.

1966 *Andes 3: Excavations at Pechiche and Garbanzal, Tumbes Valley, Peru, 1960*. Kadokawa Publishing Co., Tokyo.

1972 *Andes 4: Excavations at Kotosh, Peru, 1963 and 1966*. University of Tokyo Press, Tokyo.

KATO, Yasutake

1993 Resultados de las excavaciones en Kuntur Wasi, Cajamarca. En *El Mundo Ceremonial Andino* (*Senri Ethnological Studies* 37). L. Millones y Y. Onuki(eds.). 203-228. National Museum of Ethnology, Osaka.

加藤泰建

1993 「アンデス形成期の祭祀建築」民族芸術学会編『民族芸術』9: 37-48、講談社。

1998 「アンデス文明の起源を求めて－古代アンデスの神殿と社会」『文明の創造力－古代アンデスの神殿と社会』7-42、角川書店。

1999 「クントゥル・ワシ遺跡出土の金

製品」加藤泰建編『クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査』100-129、平成 10 年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書。

加藤泰建・井口欣也

1998 「コンドルの館」加藤・関編『文明の創造力－古代アンデスの神殿と社会』163-224、 角川書店。

KATO, Yasutake, Masato SAKAI, Sawako TOKUE, and Eisei TSURUMI

1999 *Proyecto arqueológico de reconocimiento de la Costa Norte.* El informe preliminar para el Instituto Nacional de Cultura, Lima.

加藤泰建 編

1999 『クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査』平成 10 年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書。

加藤泰建・関雄二 編

1998 『文明の創造力－古代アンデスの神殿と社会』角川書店。

LARCO H., Rafael

1941 *Los Cupisniques.* Casa Editora "La Crónica" y "Variedades" S.A. Ltd., Lima.

LOTHROP, Samuel K.

1941 Gold Ornament of Chavín Style from Chongoyape, Peru. *American Antiquity.* 6(3): 250-262.

MALDONADO, Elena

1992 *Arqueología de Cerro Sechín - TomoI: Arquitectura.* Pontificia Universidad Católica del Perú / Fundación Volkswagen, Lima.

松沢亜生

1974 「ラス・アルダス遺跡調査略報」『東京大学教養学部人文科学科紀要・文化人類学研究報告』2: 3-44。

MUJICA, Elías

1975 *Excavaciones arqueológicas en Cerro Arena: un sitio Formativo Superior en el valle del Moche.* Tesis Bachiller no publicada, Pontificia Universidad Católica del Perú, Lima.

MUSEO ARQUEOLÓGICO NACIONAL BRÜNING

1996 *Informe final de proyecto "Identificación e inventario de monumentos y yacimientos arqueológicos en el ámbito de mineroducto".*

NIALS, F., E. DEEDS, M. MOSELEY, S. POZORSKI, T. POZORSKI, and R. FELDMAN

1979 El Niño: the Catastrophic Flooding of Coastal Peru. *Field Museum of Natural history Bulletin.* 50(8): 4-10(Part II).

ONUKI, Yoshio

1990 Recientes resultados de las excavaciones en Kuntur Wasi, Cajamarca. Informe preliminar. *Gaceta Arqueológica Andina.* 5(20): 59-66.

1993 Las actividades ceremoniales tempranas en la cuenca del Alto Huallaga y algunos problemas generales. En *El Mundo Ceremonial Andino (Senri Ethnological Studies* 37). L. Millones y Y. Onuki (eds.). 69-96. National Museum of Ethnology, Osaka.

1997 Ocho tumbas especiales de Kuntur Wasi. *Boletín de Arqueología PUCP.* 1: 79-114.

1998 Cuatro décadas de trabajo arqueológico de los japoneses en el Perú. En *Encuentro Internacional de Peruanistas: Estado de los estudios histórico-sociales sobre el Perú a fines del siglo XX.* 1: 195-203. Universidad de Lima, Lima.

大貫良夫・藤井龍彦

1974 「ラ・パンパの発掘」『東京大学教養学部人文科学科紀要・文化人類学研究報告』2: 45-84。

大貫良夫・加藤泰建

1991 「クントゥル・ワシの墓—ペルー北部山地の発掘調査から」『ラテンアメリカ研究年報』11: 1-21、日本ラテン・アメリカ学会。

ONUKI, Yoshio ed.

1995 *Kuntur Wasi y Cerro Blanco: dos sitios del Formativo en el Norte del Perú.* Hokusen-sha, Tokyo.

PIMENTEL, Victor

1986 *Petroglifos en el valle medio y bajo de Jequetepeque, Norte del Perú.* Materialien zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie 31. KAVA, Munich.

POZORSKI, Shelia

1987 Theocracy vs. Militarism: the Significance of the Casma Valley in Understanding Early State Formation. In *The Origins and Development of the Andean State.* J. Haas, S. Pozorski and T. Pozorski (eds.). 15-30. Cambridge University Press, Cambridge.

POZORSKI, Shelia and Thomas POZORSKI

1977 Alto Salaverry: sitio Precerámico de la Costa Peruana. *Revista del Museo Nacional.* 43: 27-60.

1986 Recent Excavations at Pampa de las Llamas-Moxeke, a Complex Initial Period site in Peru. *Journal of Field Archaeology.* 13: 381-401.

1987 *Early Settlement and Subsistence in the Casma Valley, Peru.* University of Iowa Press, Iowa City.

1989 Planificación urbana prehistórica en Pampa de las Llamas-Moxeke, valle de Casma. *Boletín de Lima.* 66: 19-30.

1991 Storage, Access Control, and Bureaucratic Proliferation: understanding the Initial Period (1800-900 B.C.) Economy at Pampa de las Llamas-Moxeke, Casma Valley, Peru. *Research in Economic Anthropology.* 13: 341-371.

1992 Early Civilization in the Casma Valley, Peru. *Antiquity.* 66: 845-870.

1998 La dinámica del valle de Casma durante el Período Inicial. *Boletín de Arqueología PUCP.* 2: 83-100.

POZORSKI, Thomas G.

1975 El complejo de Caballo Muerto: los frisos de barro de la Huaca de los Reyes. *Revista del Museo Nacional.* 41: 211-251.

1976 *Caballo Muerto: A Com lex of Early Ceramic Sites in the Moche Valley, Peru.* Ph.D. dissertation, University of Texas, Austin. University Microfilms, Ann Arbor.

1987 Chavín, the Early Horizon and the Initial Period. In *The Origins and Development of the Andean State.* J. Haas, S.

Pozorski and T. Pozorski (eds.). 15-30. Cambridge University Press, Cambridge.

POZORSKI, Thomas and Shelia POZORSKI

1990 Huaynuná, a Late Cotton Preceramic Site on the North Coast of Peru. *Journal of Field Archaeology*. 17: 17-26.

1995 An I-Shaped Ball-Court Form at Pampa de las Llamas-Moxeke, Peru. *Latin American Antiquity*. 6(3): 274-280.

1996 Ventilated Hearth Structures in the Casma Valley, Peru. *Latin American Antiquity*. 7(4): 341-353.

PROULX, Donald

1985 *An Analysis of the Early Cultural Sequence in the Nepeña Valley, Peru*. Research Report No.25, Department of Anthropology, University of Massachusetts, Amherst.

RAVINES, Rogger

1981 *Mapa Arqueológico del valle del Jequetepeque*. Instituto Nacional de Cultura, Lima.

1982 *Arqueología del valle medio del Jequetepeque*. Instituto Nacional de Cultura, Lima.

1983 *Inventario de monumentos arqueológicos del Perú: zona norte*. Instituto Nacional de Cultura, Lima.

1985 Early Monumental Architecture of the Jequetepeque Valley, Peru. In *Early Ceremonial Architecture in the Andes*. C. Donnan (ed.). 209-226. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.

ROE, Peter

1974 *A Further Exploration of the Rowe Chavín Seriation and Its Implications for North Central Coast Chronology*. Studies in Pre-Columbian Art and Archaeology. 13. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.

ROWE, John H.

1967 Form and Meaning in Chavín Art. In *Peruvian Archaeology: Selected Readings*. J. H. Rowe and D. Menzel (eds.). 72-103. Peek Publications, Palo Alto

坂井正人

1999 「クントゥル・ワシ神殿における建築活動と生産活動－遺物の分析を手がかりとして－」加藤泰建編『クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査』130-159、平成 10 年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書。

SALAZAR-BURGER, Lucy and R. BURGER

1982 La araña en la iconografía del Horizonte Temprano en la Costa Norte del Perú. *Beiträge zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie*. 4: 213-253.

SAMANIEGO, Lorenzo, Enrique VERGARA, and Henning BISCHOF

1985 New Evidence on Cerro Sechín, Casma valley, Peru. In *Early Ceremonial Architecture in the Andes*. C. Donnan (ed.). 165-190. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.

SEKI, Yuji

1997 Excavaciones en el sitio La Bomba, valle medio de Jequetepeque, Cajamarca. *Boletín de Arqueología PUCP*. 1: 115-136.

1998 El Periodo Formativo en el valle de

Cajamarca. *Boletín de Arqueología PUCP.* 2: 147-160.

関雄二・坂井正人

1998 「聖なる丘」加藤・関編『文明の創造力－古代アンデスの神殿と社会』95-162、角川書店。

SHIMADA, Izumi, Carlos G. ELERA, and Melody J. SHIMADA

1982 Excavaciones efectuadas en el centro ceremonial de Huaca Lucía-Cholope, del Horizonte Temprano, Batán Grande, costa del Perú: 1979-81. *Arqueológicas.* 19: 109-210, Lima.

TELLENBACH, Michael

1986 *Las excavaciones en el asentamiento Formativo de Montegrande, valle de Jequetepeque en el Norte del Perú.* Materialien zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie 39. KAVA, Munchen.

TELLO, Julio C.

1943 Discovery of the Chavín Culture in Peru. *American Anthropologist.* 9(1): 135-160.

1956 *Arqueología del valle de Casma: Culturas Chavín, Santa o Huaylas, Yunga y Sub-Chimú.* Publicación Antropológica del Archivo "Julio C. Tello". vol.1. Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.

1960 *Chavín: Cultura Matriz de la Civilización Andina.* Publicación Antropológica del Archivo "Julio C. Tello". vol.2. Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.

TERADA, Kazuo ed.

1979 *Excavations at La Pampa in the North Highlands of Peru, 1975.* University of Tokyo Press, Tokyo.

TERADA, Kazuo and Yoshio ONUKI eds.

1982 *Excavations at Huacaloma in the Cajamarca Valley, Peru, 1979.* University of Tokyo Press, Tokyo.

1985 *The Formative Period in the Cajamarca Basin, Peru: Excavations at Huacaloma and Layzón, 1982.* University of Tokyo Press, Tokyo.

1988 *Las Excavaciones en Cerro Blanco y Huacaloma, Cajamarca, Perú, 1985.* Departamento de Antropología Cultural, Universidad de Tokio, Tokyo.

徳江佐和子

1999 「アンデス形成期の墓と神殿－クントゥル・ワシ遺跡Ｂ区１号墓の発掘事例より－」加藤泰建編『クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査』50-76.、平成 10 年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書。

UCEDA, Santiago

1988 *Catastro de los sitios arqueológicos del área de influencia del canal de irrigación CHAVIMOCHIC: valles de Santa y Chao.* Patrimonio Arqueológico Zona Norte 1. Instituto Departamental de Cultura-La Libertad, Trujillo.

UCEDA, Santiago, José CARCELEN, and Victor PIMENTEL

1990 *Catastro de los sitios arqueológicos del área de influencia del canal de irrigación CHAVIMOCHIC: valles de Santa (Palo Redondo) y Virú.* Patrimonio

Arqueológico Zona Norte 2. Instituto Departamental de Cultura-La Libertad, Trujillo.

ULBERT, Cornelius

1994 *Die keramik der formativzeitlichen siedlung Montegrande, Jequetepequetal, Nord-Peru.* Materialien zur Allgemeinen und Vergleichenden Archäologie 52. Verlag Philipp von Zabern, Meinz am Rhein.

WELLS, Lisa

1990 Holocene History of the El Niño Phenomenon as Recorded in Flood Sediments of Northern Coastal Peru. *Geology.* 18: 1134-1137.

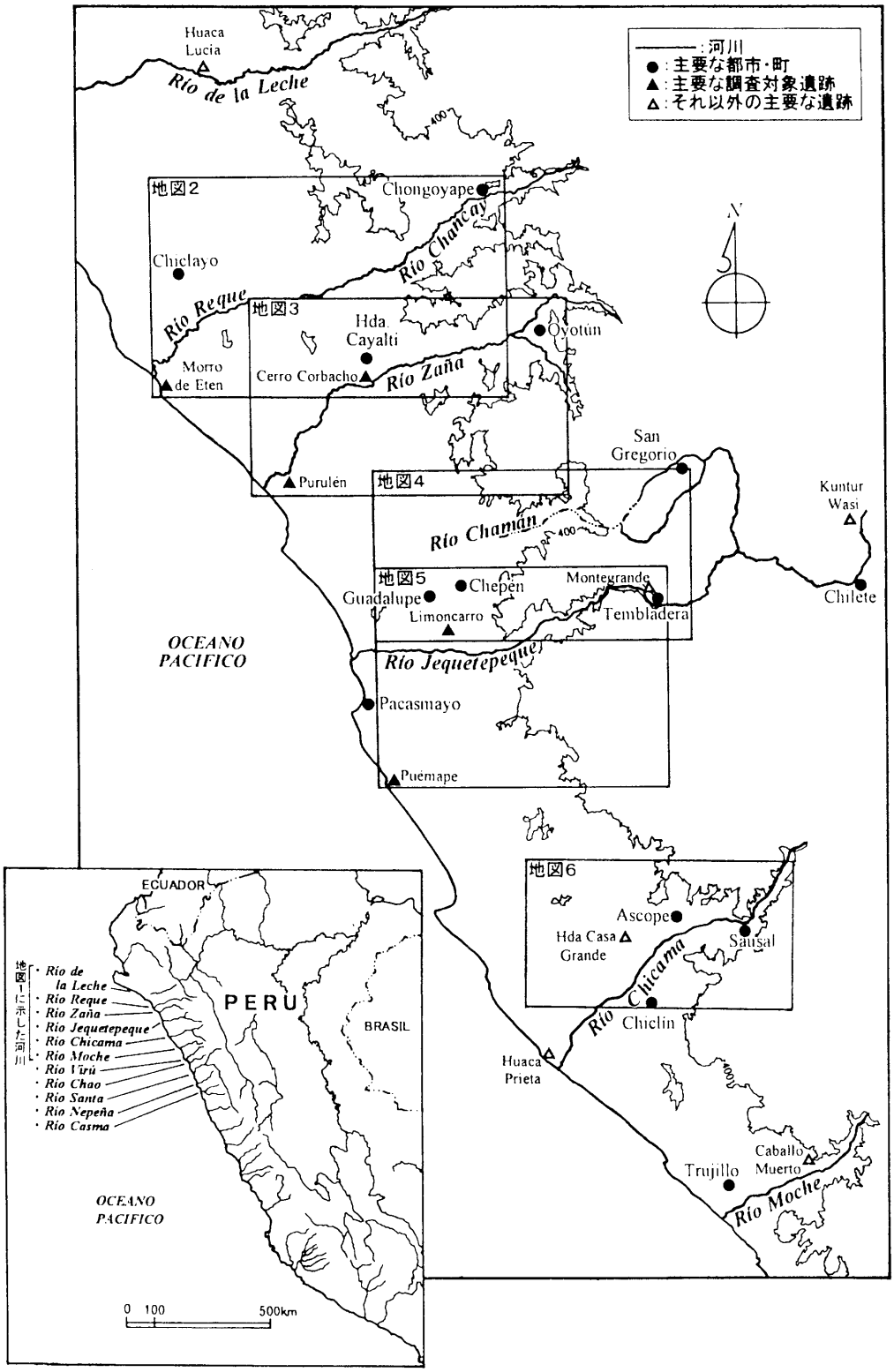
WILLEY, Gordon R.

1953 *Prehistoric Settlement Patterns in the Virú Valley, Peru.* Smithsonian Institution Bureau of American Ethnology. Bulletin 155. Washington, D.C.

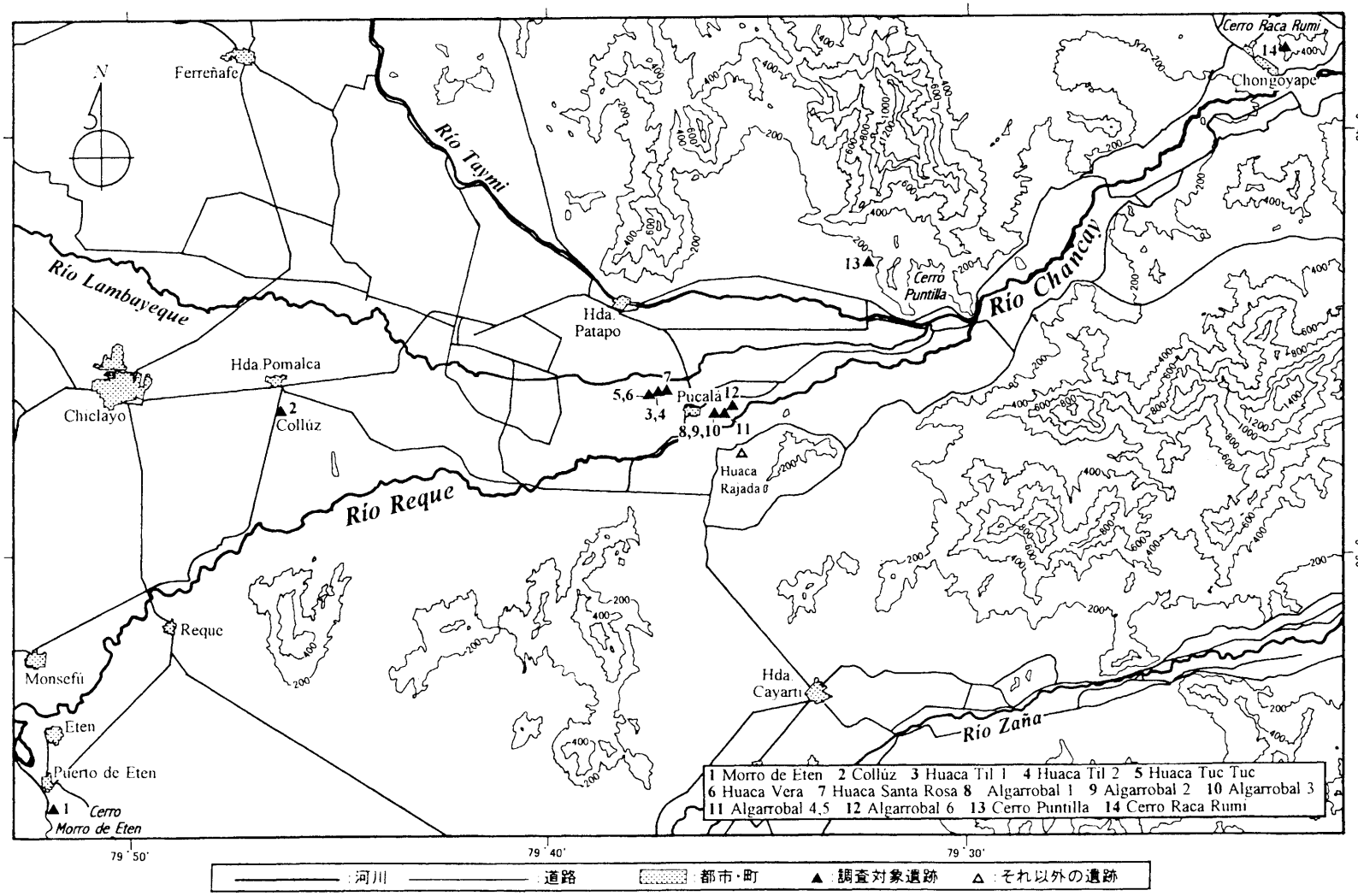
WILSON, David J.

1987 Reconstructing Patterns of Early Warfare in the Lower Santa Valley: New Data on the Role of Conflict in the Origins of Complex North Coast Society. In *The Origins and Development of the Andean State.* J. Haas, S. Pozorski and T. Pozorski (eds.). 56-69. Cambridge University Press, Cambridge.

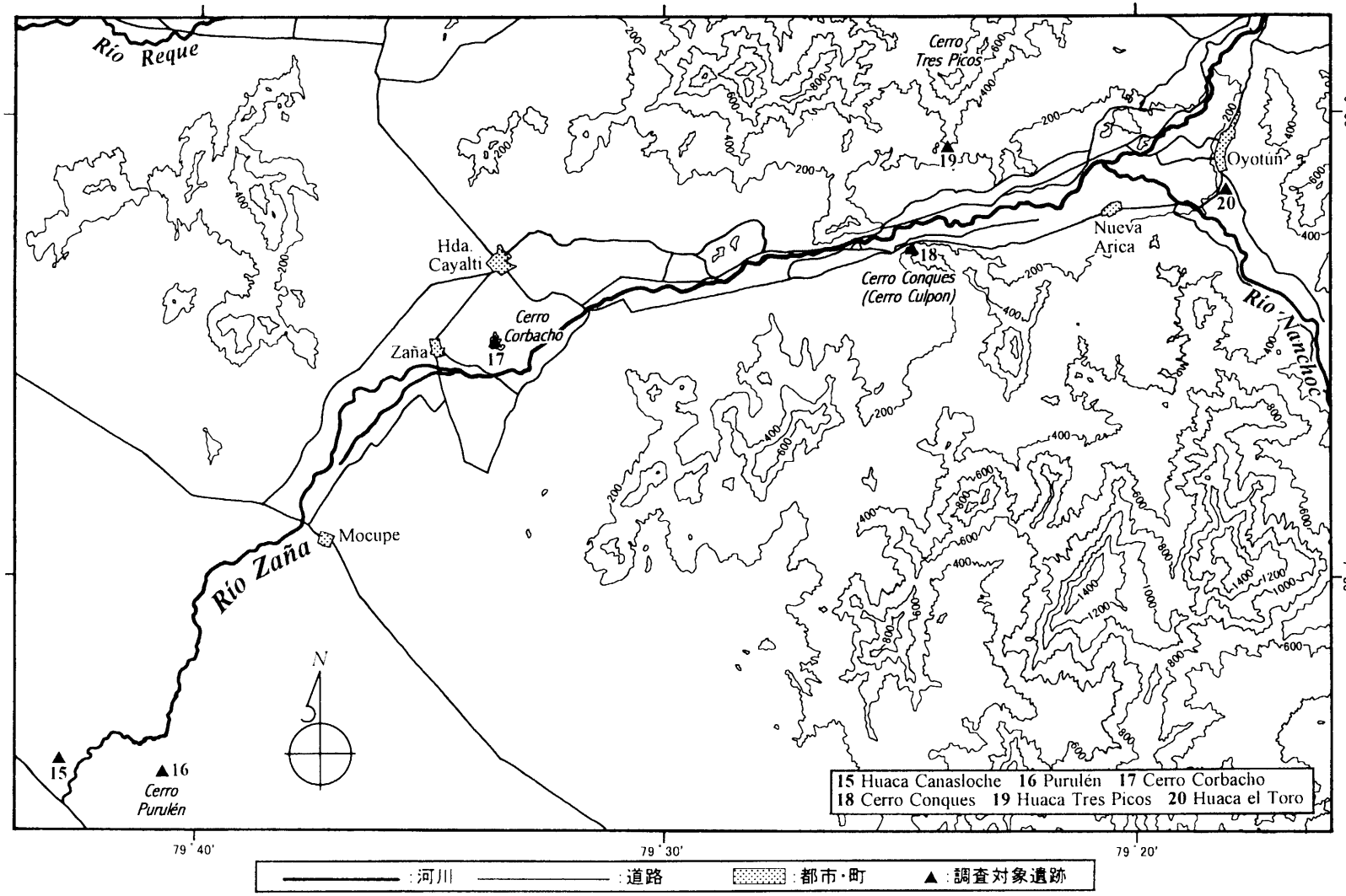
1988 *Prehispanic Settlement Patterns in the Lower Santa Valley, Peru: a Regional Perspective on the Origins and Development of Complex North-Coast Society.* Smithsonian Series in Archaeological Inquiry. Smithsonian Institute, Washington, D.C.



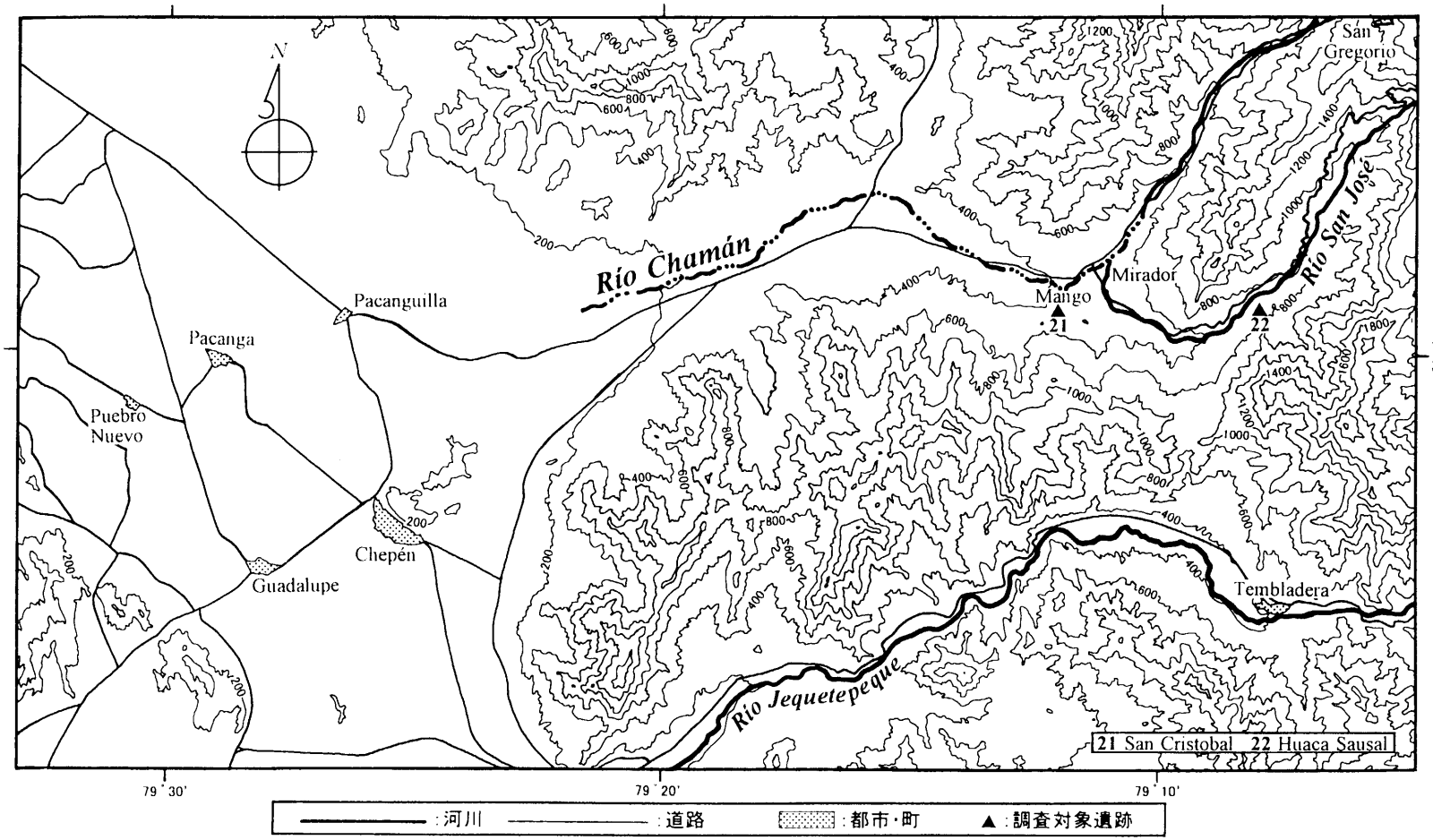
地図１　ペルー北海岸、及び地図２～５の範囲（1:1000000）



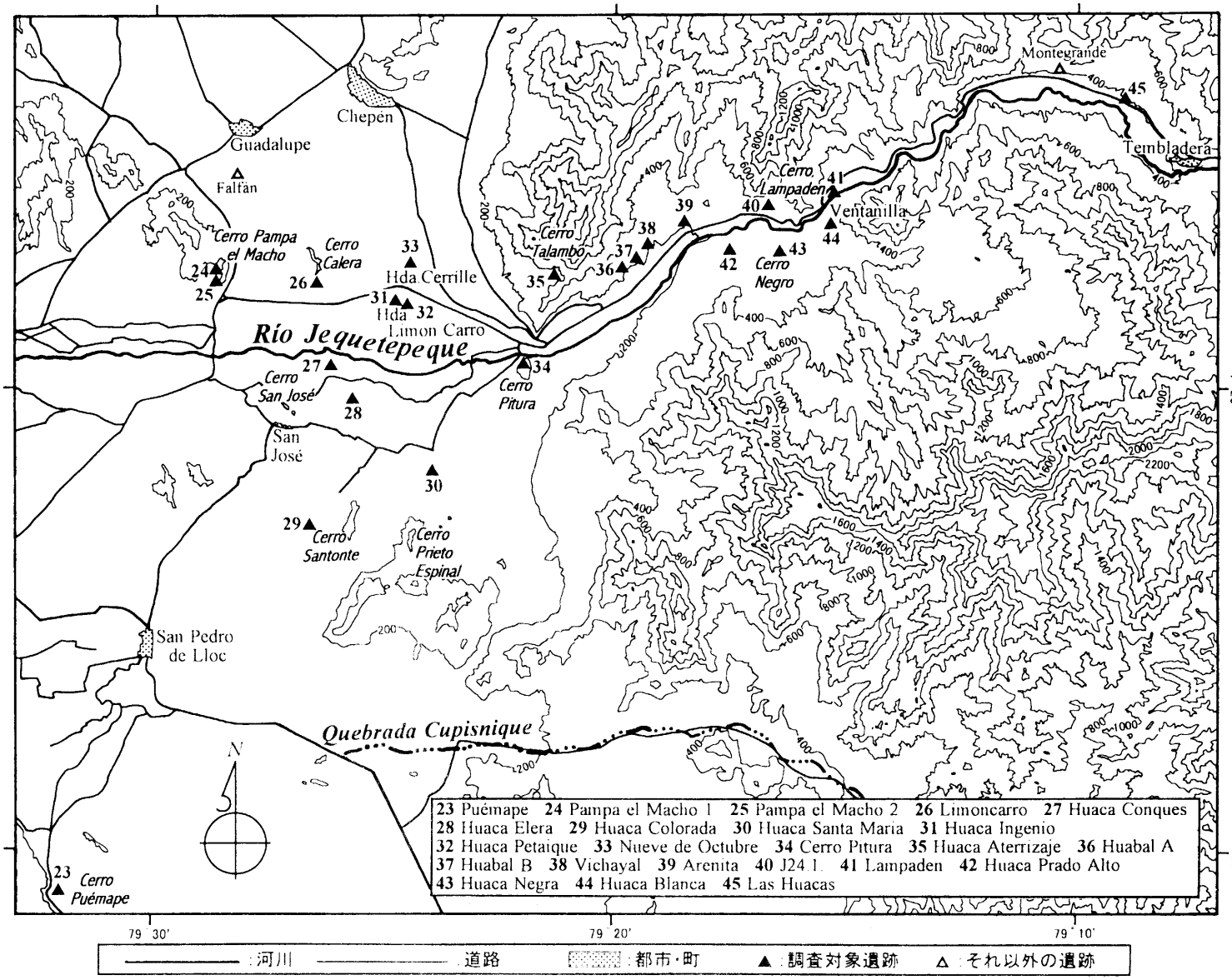
地図２　レケ～チャンカイ川流域の遺跡（1:250000）



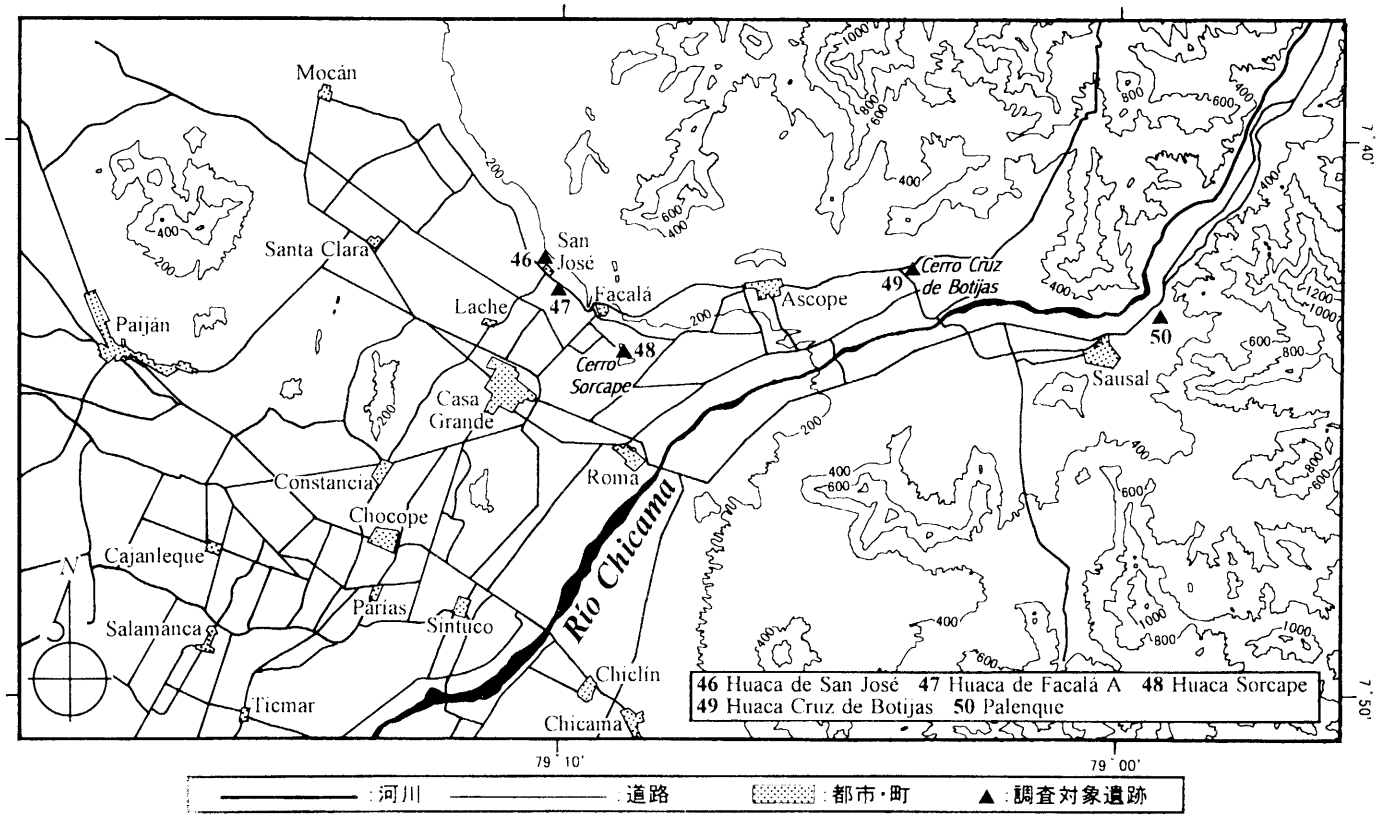
地図３　サーニャ川流域の遺跡（1:250000）



地図4　チャマン川流域の遺跡（1:250000）



地図5　ヘケテペケ川流域の遺跡（1:250000）



地図6　チカマ川流域の遺跡（1:250000）

図1 リモンカルロ（Limoncarro）

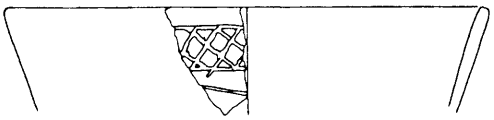


図2 アルガロバル5（Algarrobal 5）

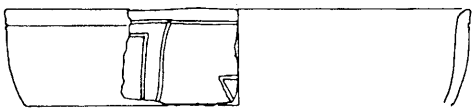


図3 アルガロバル4（Algarrobal 4）

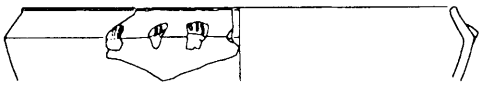


図4 ラス・ワカス（Las Huacas）

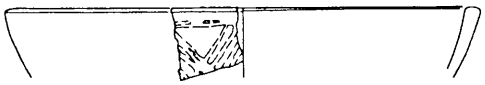


図5 ラス・ワカス（Las Huacas）

図6 ラス・ワカス（Las Huacas）

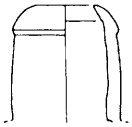


図7 アルガロバル3（Algarrobal 3）

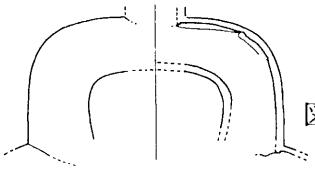


図8 リモンカルロ（Limoncarro）

図9 ワカ・ティル2
(Huaca Til 2)

赤

白

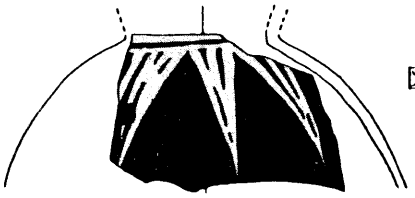


図10 ワカ・サンタ・ロサ
(Huaca Santa Rosa)

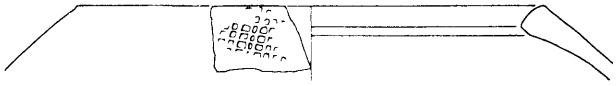


図11 パンパ・エル・マッチョ1
(Pampa el Macho 1)

図12 セロ・コルバッチョ
(Cerro Corbacho)

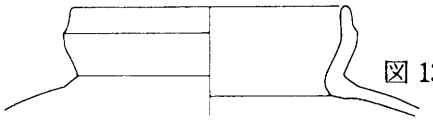


図13 パンパ・エル・マッチョ1
(Pampa el Macho 1)

直径 62.8cm

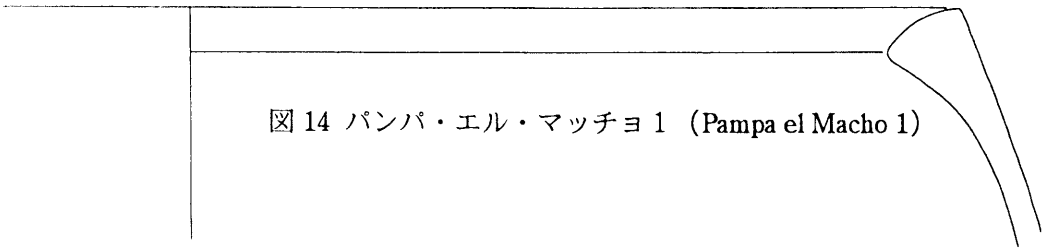


図14 パンパ・エル・マッチョ1 (Pampa el Macho 1)

断面

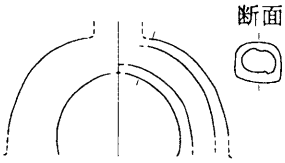


図15 アルガロバル5 (Algarrobal 5)

0 15cm

写真１　コユス（Collúz）<No.2>　東マウンド群より西マウンド群を望む

写真２　ワカ・サンタ・ロサ（Huaca Santa Rosa）<No. 7>
背後にワカ・ラハダ（Huaca Rajada）が見える

写真３　アルガロバル４ (Algarrobal 4) <No.11>　アルガロバル５より撮影

写真４　プルレン (Purulén) <No.16>

写真５　ワカ・トレス・ピコス(Huaca Tres Picos)<No.19>

写真６　ワカ・エル・トロ (Huaca el Toro) <No.20>

写真７　パンパ・エル・マッチョ１ (Pampa el Macho 1) <No.24>

写真８　リモンカルロ (Limoncarro) <No.26>

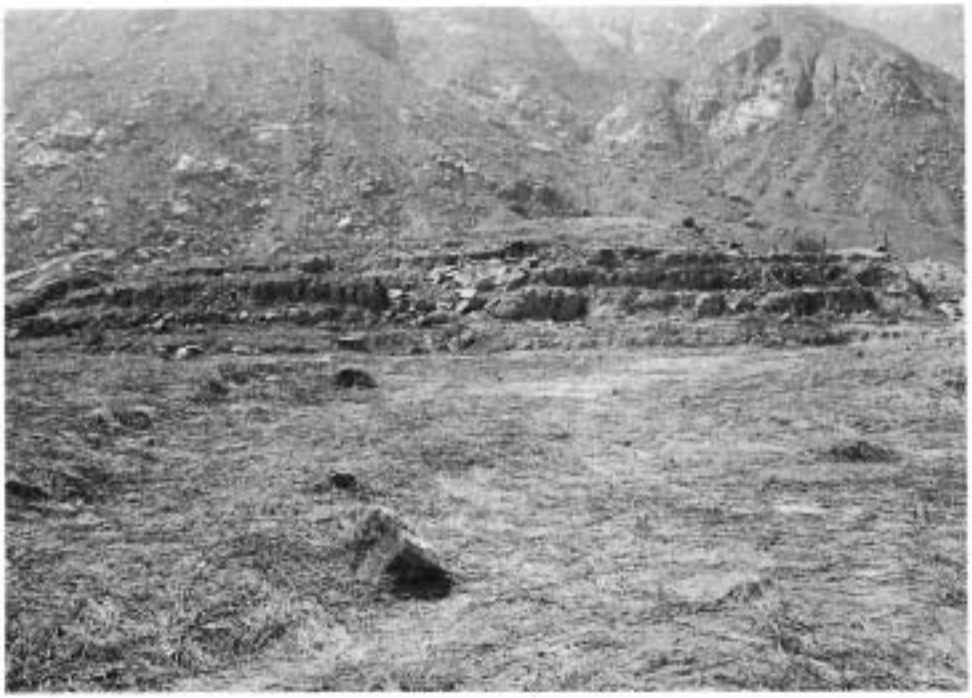


写真9　J24.1.<No.40>　最上壇

写真10　ワカ・ブランカ (Huaca Blanca) <No.44>

写真 11　形成期土器
左３点がラス・ワカス（Las Huacas）、上から反時計回りに図４、６、５に対応。
右２点がリモンカルロ（Limoncarro）、上から順に図８、１に対応。

写真 12　形成期土器
いずれもアルガロバル（Algarrobal）、左から順に図７、２、３に対応。

写真13　モチェ土器
左はワカ・ティル2 (Huaca Til 2)、図9に対応。
右はワカ・サンタ・ロサ (Huaca Santa Rosa)、図10に対応。

写真14　モチェ土器　いずれもワカ・ソルカペ (Huaca Sorcape)。

写真　15　チムー・ランバイェケ土器
いずれもパンパ・エル・マッチョ 1 (Pampa el Macho 1)、左から順に図 13、14 に対応。

写真 16　チムー・ランバイェケ土器
左はアルガロバル 5 (Algarrobal 5)、図 15 に対応。
中央はパンパ・エル・マッチョ 1 (Pampa el Macho 1)、図 11 に対応。
右はセロ・コルバッチョ (Cerro Corbacho)、図 12 に対応。